

1 学校教育目標

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎やる気いっぱい やさしさいっぱい やりとりいっぱい 中川東小 ○子供たちにとって大好きな学校、未来に亘って居場所となる学校 ○教師にとってやりがいをもって教育に邁進する学校 ○保護者や地域の方々にとって誇りに思う学校
○児童・生徒像	◎やさしく かしこく たくましい子 ○誰とでも仲良く分け隔てなく接する子 ○よく考え、すすんで学ぶ子 ○心身を鍛え、様々なことに挑戦する子
○教師像	◎子供たちを愛し、子供たちを伸ばし、教育への情熱を燃やす教師 ○常に子供の心の傍にいて、一人一人の子供のよさや可能性を最大限に伸ばす教師 ○「教師は授業が命」と授業づくりに熱心に取り組む教師 ○豊かな感性としなやかな対応力をもち、人間味あふれた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

- 児童について 素直で優しい児童が多い。人とかかわる活動を楽しんで行うことができる。また、与えられた課題には一生懸命に取り組む姿が多く見られる。さらに、自ら課題を見つけ解決していく力を育てていきたい。
- 教師について 若手教員と若手を育てるベテラン教員とが共に「チーム中川東」として、児童の視点を大切にした教育活動を推進している。常に児童と共にある教師集団であり、「教師は授業が命」を合言葉に授業力向上に切磋琢磨している。
- 保護者・地域について 地域の温かさに包まれている学校である。「PTA」「開かれた学校づくり協議会」等を中心に、積極的に教育活動に協力いただいている。一昨年度の創立40周年記念事業の大成功が、学校・保護者・地域の一体感をより一層強いものとしている。

[前年度の成果と課題]

- 教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る。
 校内研究・管理職による授業観察・教科指導専門員による訪問指導等を通して、常に授業をオープンにして授業研究に努めることで授業力向上が図られてきた。また、花丸教室（放課後補習教室）・そだち指導等では個に応じた指導を充実させた。区学力調査（目標通過率74.3%）の分析を徹底して行い、習熟できていない部分の指導に力を入れた。家庭学習の徹底を図るとともに自学ノートを活用し、学力向上を図っている。新しい文章を読み解く力が課題。基礎基本の定着とともに「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努める。読書環境を整えることも必須事項である。
- 児童が安心して学べる教育環境を整える。
 コロナ禍であっても「一人一人を大切にせる教育」により一層力を注いできた。制約のある中ではあったが、人とかかわる楽しさを存分に味わわせ

るのが本校の特色である。各学校行事を工夫を凝らして行い、児童の自己肯定感につなげることができた。いじめの早期発見・早期解決にも努めた結果、いじめ解決率は100%である。年2回のHyperQ-U検査を最大限に活用し、より温かく高め合える集団づくりに努めてきた。42周年の歩みを始める本校がいつまでも児童の居場所となるように、今後も教育活動を力強く推進する。創立40周年で整った教育環境をさらに充実させていく。

○保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

春の休校期間を経て、常に保護者や地域と連携をとる必要性が高まり、新たな連携のあり方を模索することができた。学校メールへの登録率は100%達成。ホームページの更新率・アクセス数も大幅に伸ばすことができた。PTA活動ができなかった代わりに登下校の見守りをお願いしたが、そこで生まれる会話からも信頼関係を築くことができた。保護者や地域とのコミュニケーションが深まり、心の通った連携が築かれつつあることを手ごたえとして感じている。忙しく働いている家庭が多い中、「共に育てていく」という土壌を耕し、保護者・地域と心をつなげた学校経営を行う。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン～教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る～	○	○	○	○	○
2	児童が安心して学べる教育環境を整える。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
児童の学力向上を図る。		令和3年度区学力調査 目標通過率80%以上 2月実施の定着度確認テスト で目標値を通過する対象児童 80%	区学力調査 目標通過率78.6% 昨年度比 +4.3% 定着度確認テスト 目標通過率75.0%	引き続き基礎基本の定着を図るとともに、活用力を目指した授業改善の実践を推し進めていく。新しい文章を読み解く力と多読を鍛え、学力向上を図っていく。				○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

改善	ICT 機器の活用	全学年 国語算数 社会理科 生活総合 等	毎日 (家庭 学習も 含む。) 通年	ICT 機器を活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う。 ・双方向型の一斉授業実現 ・リアルタイムの考え共有 ・調べ学習の充実	児童アンケート 教員アンケート	・週3回以上児童用タブレットを用いた授業を実施した教員80%以上(1人1台端末環境が整った後)	タブレットを用いた授業実施率は高く、週3回以上は100%達成。毎週金曜日に家庭への持ち帰りを実施。リモート学習も順調に展開。	「GIGA スクール構想」における1人1台端末は9月に整った。児童・教員共に頻繁に活用している。共有場面での活用を探りたい。	◎
改善	校内研究による教員の授業力向上	全教員・ 全児童 国語算数 道徳等	研究授業(7回) 研究発表会(「開かれた学校づくり協議会」・近隣ブロックへ)	学力向上に直結する教員の授業力向上を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ・話し合い・交流で自分の考えを深める授業展開 ・児童の発表の場の設定 ・書く力の育成(全国学力)週1回100文字作文	児童アンケート 教員アンケート 全国学力調査 都・区学力調査	・R3全国学力調査にて記述式無答率0% ・区学力調査にて目標通過率80%以上	全国学力調査 記述式無答率2% 平均正答率 国75%(都比+7%) 算76%(都比+2%) 区学力調査 目標通過率78.6% 昨年度比 +4.3% ◎意欲の向上顕著	主体的に粘り強く学ぶ児童が増えた。話し合いを多く取り入れ学校で学ぶ楽しさも実感している。学年差をなくす組織的取り組みをより強化していく。	◎
改善	読書環境の充実	全教員・ 全児童 国語 図書	年3回の 読書月 間 通年	読書環境の充実を図り、本にすぐ手を伸ばす子を育てる。 ・国語関連図書の充実 ・「調べる学習コンクール」への応募 ・ビブリオバトルの実施 ・本の展示を中心に据えた教室環境	読書量調査 コンクールへの 応募数		各読書月間 目標達成児童 昨年度比133.1% 「調べる学習コンクール」への応募 低学年へ広げる 各教室での展示随時	読書バッグの携行を徹底し「本にすぐ手を伸ばす子」の育成に力を入れた。さらに多読・速読の力を伸ばしていきたい。	○
継続	花丸教室(放課後補習教室)	全学年 目標値を達成していない児童 正答率 75%未満 国語算数	毎週 火・木曜日 放課後 30分間	一人一人のつまずきに応じた個別指導を徹底し、苦手意識の早期解消を図り学習意欲を喚起する。 ・全教員による全校体制 ・使用教材は、プリントとベーシックドリル ・学力ポートフォリオによる指導内容の精選	定着度確認テスト(2月実施) 教員自己評価 アンケート		定着度確認テスト % 教員自己評価(肯定) 個別の課題 100% 分かるまで 93% 授業改善へ 79%	花丸教室の人選を絞り込み、個に応じた課題を用意して効果的であった。より個に応じるためには、人員と時間が必要である。	○

改善	家庭学習の徹底	全学年 全教科 主に国語 と算数 自主学習 (3年生 以上)	毎日 キャン ペーン は 年10回	授業の充実・個に応じた指導・家庭学習の徹底は学力向上のトライアングル。より一層の家庭学習の徹底を図り、学力向上につなげる。 ・年10回の「家庭学習キャンペーン」の実施 ・自主学習のモデルを参考に実施・教室内への展示 ・自学ノートコンクール	宿題提出状況 調査 年3回 自学ノートの点 検・相互評価	・家庭学習カード 提出率 100% ・宿題提出率 100% ・自主学習提出 100% ・学校評価アン ケート 肯定的回答 90%以上	宿題提出率 84% 自主学習提出率 81.1% 学校評価アンケート 肯定的回答 84.7% 自学コンクール 6年は月1回実施	自学ノートの取り組みは全校的に盛り上がる機運である。高学年で行っている自学コンクールでの学び合いは効果を上げている。スタート学年には丁寧に説明する必要がある。	◎
継続	パワーアップタイム (朝学習)	全学年 国語算数	毎週 火・水曜日 始業前 15分間	反復練習により学習内容の基礎基本の定着を図る。 ・一日の学習のリズミカルなスタートの習慣化 ・5分間で取り組める読解問題中心の教材を活用 ・主に担任と副担任で行う。	毎回のドリルの 自己採点・記録	・毎回のドリルの 正答率 85%以上	毎回のミニテスト等 各学級 80~100% 読解中心で効果	読解問題中心の教材を活用して3年目。花丸教室では『論理エンジン』も活用。今後もよりよい教材を選定していく。	○

重点的な取組事項－2		児童が安心して学べる教育環境を整える。			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	児童にとって安全・安心な学校生活を確立する。		各項目ほぼ90%の肯定的評価 心を育てる 92% いじめ防止 89% 施設整備 92%	コロナから児童の命と学びを守る。この危機管理がすべて。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
	項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題
	子供の心を育てる 教育活動の充実	「生活指導・特別活動に関する項目」: 肯定的回答 90%以上	・「人とかかわる活動」の意図的・組織的展開 ・縦割り班活動の充実 ・気持ちのよい挨拶の徹底 ・人権尊重教育の徹底 ・全員合唱『いのちの歌』	92%の肯定的評価 その内A評価が66.4%と保護者からの最も高い評価 人権月間における取り組みの充実	制約の多い中でもできる限りの工夫を凝らして教育活動を展開。学校行事の重要性をあらためて実感した。

いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない校風醸成 ・いじめの起こらない学年・学級経営 ・HyperQ-U 検査の活用 ・早期発見・早期解決 	89%の肯定的評価 いじめ解決率 100% いじめ相談箱活用件数 0 件 HyperQ-U 検査結果の活用 (0JT)	校内研究 (道徳) のよい影響が学校生活に見られる。学校全体にしっかりとした雰囲気醸し出されている。	◎
安全・安心な学校の整備	「学校施設の安全に関する項目」: 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検の徹底 ・創立 40 周年レガシー堅持 ・花があふれる環境づくり ・オリンピック・パラリンピックに関連した環境整備 	92%の肯定的評価 鉄棒・ゴール等遊具修理 屋上工事に伴う安全管理 保護者ボランティアを活用した花があふれる環境づくり	依然として続くコロナ禍において、児童の安全・安心な学校生活を最優先として取り組んできた。	○

重点的な取組事項－3	保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。
-------------------	--------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、「創立 40 周年、その後」の教育活動を充実する。	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」: 肯定的回答 90%以上	肯定的評価 保護者連携 92% 地域連携 84%	情報発信の質と量が評価されたと認識。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	学校公開参観率 85%以上 学校行事参観率 95%以上 登下校見守り参加率 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開・学校行事の内容の充実、参観率の向上 ・通信・HP・学校メール等による情報発信の充実 ・登下校見守りによる双方向の情報共有 	学校公開・学校行事ともにほぼ 100%の参観率 Web を活用した回答に改善 (欠席連絡・学校評価アンケート) 登校見守り隊実施の定着	限られた参観の機会に保護者の熱心さが伝わってきた。HP・学校メールによるきめ細かな情報発信に努めた。	◎
子供の夢を育む周辺教育施設との連携強化	「幼保小中高との連携に関する項目」: 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園・保育園との日常的交流の充実 ・小中連携の強化 (学びのスタイルや自学の統一) ・足立東高との連携の継続 (吹奏楽・陸上・挨拶等) 	園との交流は可能な範囲で実施 小中連携は 2 回のみ授業公開 (内 1 回はリモート) 足立東高との連携は中止 ジョイントコンサートは中止	ほぼ連携を行うことができなかった。小中連携のみ、全学級において授業公開・協議会実施。連携を深めることができ、成果大。	△
「開かれた学校づくり協議会」を中心とした地域との連携強化	「家庭や地域との連携に関する項目」: 肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 42 周年の歩みの共有 ・協議会活動内容の情報発信 ・地域人材の新規発掘及び連携強化 ・避難所開設・運営における協力体制の強化 	「開かれた学校づくり協議会を中心とした地域との連携」 肯定的評価 84% 昨年度比 -12%	昨年度に引き続き、会議・活動をほとんど行うことができなかった。心理面でのサポートに感謝したい。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題①】・第5学年国語においては、通過率が58.5%であり、学習の定着状況に大きな課題がある。特に、最後まで粘り強く課題に立ち向かうことに課題を抱える児童が一定数いる。

【対策①】・足立スタンダードに則った授業を展開し、児童が「読む」「書く」「話し合う」ことが楽しいと思える授業を積み重ね、意欲を喚起する。
・漢字の習得にはスモールステップで取り組ませ、定着を促す。読書環境を整え、語彙力を伸ばす。短い文章を読み取ることを繰り返す。
・個別指導では、学力ポートフォリオを活用し担任・副担任・講師等全校体制で指導にあたる。(サマースクールは基本一対一指導)

【課題②】・第3学年算数においては、通過率が69.0%であり、目標通過率を達成することができなかった。

【対策②】・授業では、意図的に立式や求め方を書く活動を取り入れるようにする。「振り返り」の活動を大切に生かす授業展開をとる。
・個別指導では、正答率の低かった「図形」や「数と計算」の学習において、つまづきを早急に解消させ習熟を図る。
・「そだち指導員」による個に応じた指導を充実させる。

イ 重点的な取組事項—1 児童の学力向上を図る。

【成果】・学習意欲の向上 <<教員>>授業力・きめ細かな個別指導 <<児童>>ICT 機器活用力・家庭学習力
・表現力の向上 スピーチ力(ノ一原稿)・調べてまとめる力(100文字)・自学ノートに見る追究力
【課題】・区学力調査 目標通過率78.6% 昨年度比+4.3% 基礎基本の定着の徹底・思考力の育成
・新学習指導要領の理念「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善(校内研究「道徳」)

ウ 重点的な取組事項—2 児童が安心して学べる教育環境を整える。

【成果】・コロナから児童の命と学びを守る HyperQ-U 検査(年2回)を活用した温かく高め合う学級経営の充実(OJT 研修の実施)
【課題】・人とかかわる活動の復活 居場所のある集団づくり・縦割り班活動の一層の充実

エ 重点的な取組事項—3 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

【成果】・情報発信の充実 学校メール・ホームページ・各種通信 Web 回答の導入(欠席連絡・学校評価) 1人1台タブレットの活用
【課題】・コロナ禍における交流機会の大幅減少

(2) 保護者や地域へのメッセージ

子供たちの命と健康を守る、これに尽きる一年間でした。新型コロナウイルス感染防止のため、様々な防止策を講じました。保護者の皆様には毎朝の健康チェックと検温を通して、子供たちの健康管理に大いなるご協力をいただきました。自分と友達と家族を守るため、みんなで感染防止に努めてきた一年間です。教育活動も様々な制約の中で進めなくてはなりませんでしたが、子供たちが学校生活を生き生きと送っている様子や成長の足跡を、実際に目に確かめていただきたいというのが、学校の願いです。でも、今年度もそれがままたりませんでした。時も場も人数も制限して学校行事や保護者会を行いました。保護者や地域の皆様にしてみれば、子供たちの姿や様子をもっと見たかったことでしょうか。しかし、学校評価アンケートでは、感染防止をしながらできることを精一杯やってもらったというお声を多くいただきました。頭が下がりました。

今年も、学校だより・学級だよりや学校メール・ホームページ等による情報発信に力を入れました。「人とのかかわり」は本校の一番大切な経営方針の一つですが、今までとは違った形でのつながり方を模索する一年となりました。とは言え、学校教育は人と学ぶことで成り立ちます。一日も早く元どおりの学校活が戻ってくることを願ってやみません。情熱あふれる教員たちは、授業で学校行事で、何より子供たちとのかけがえのない日々で、今ためているエネルギーを燃焼させたいと願っています。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、思ったように教育活動を展開することができませんでした。しかし、そのような制限のある状況下でも、「今できることを全力で」のスローガンのもと、子供たちに大切であると思う教育活動を充実させてきました。コロナ禍であっても、子供たちの学びを止めない、それは私たちの決意でもありました。教育活動全般において、この状況だからこそついてきた力もあると考えています。それは、スピーチ力であり、調べる力であり、家庭学習力や ICT 機器活用力等であったように思います。特に国の「GIGA スクール構想」を受けて、タブレットを活用した学習が目を見張るほど充実しました。子供たちの新しい学びの可能性を感じることができたことは、大きな収穫です。子供たちの自己肯定感の高まりを感じた年でもありました。

地域や保護者の皆様には、いつもにも増して学校教育へのご支援をいただきました。子供たちの登下校の見守り・毎朝の検温・健康確認等、常に子供たちを見守っていただいたのがよく伝わってまいりました。本校は地域の温かさに包まれた学校です。このような状況下でも温かく見守られたことに感謝しつつ、次年度の教育活動をより力強く推進していくことをお誓いします。